

## 36. 救急救命処置

### <到達目標>

- ・ 口腔内の器材を素早く撤去できる
- ・ 反応の確認ができる
- ・ バイタルサイン（気道確保・呼吸・血液循環）の確認ができる
- ・ 酸素の吸入ができる
- ・ 必要器材を素早く準備できる
- ・ 呼気の吹き込みができる

### <設定場面>

歯科医院で治療中に患者が突然意識を失った。歯科医師が現在手を離せない状況にあり、救急救命処置を行うことにする。

### <治療手順>

#### 1. 処置の中止

口腔内にある器械器具を全部取り除き、処置を中止する。

#### 2. 反応の確認 必要器材：監視モニター、SpO<sub>2</sub> モニター

患者に声かけをする。

- ・ 反応があれば安静にして観察を続ける。
- ・ 反応がなければバイタルサインを確認する。

#### 3. バイタルサインの確認 必要器材：血圧計、聴診器

A：Air way（気道の確保）→舌根の沈下を防ぐために下顎角の挙上

B：Breathing（換気）→呼吸がないか、患者の鼻腔に頬を近づけて換気を確認

C：Circulation（血液循環）→脈拍を確認（頸動脈が最も確実）、血圧計での血圧の計測

4. 酸素の吸入 必要器材：酸素ボンベ

過換気症候群以外ではすべての場合に酸素の吸入

5. 呼気の吹き込み 必要器材：アンビューバッグ、人工呼吸用携帯マスク、AED

チアノーゼが見られたら、呼気の吹き込み

- ・ あればアンビューバッグ、S 上エアウェーなどを行う。
- ・ なければマウスツーマウス（胸郭の挙上を確認する）

血液循環が確認できなければ、AED（自動除細動器）装着

症状悪化するようならば 119 番への通報

参考 ※過換気症候群の場合

1. 処置 必要器材：紙コップ、紙袋

症状：気分が悪いと訴え、震えや助産師様手指などの症状を表す。

紙袋・紙コップなどを使って患者自身の呼気の再吸入を促し、血中酸素濃度を下げる。

## 36. 救急救命処置

必要器材

- ①監視モニター ②SpO<sub>2</sub> モニター ③血圧計 ④聴診器 ⑤酸素ボンベ ⑥  
アンビューバッグ ⑦人工呼吸用携帯マスク ⑧AED ⑨紙コップ ⑩紙袋